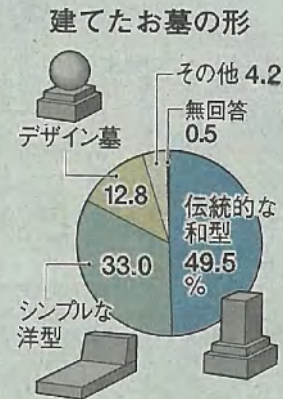


デザイン墓 じわり人気

和型が初の過半数割れ

「ありがとう」「絆」などと書かれた墓石が、芝生の広がる墓地に並ぶ。レリーフに飾られたペンクや青の墓石もあれば、墓石の間にはステンドグラスを入れ込んだデザインも。近年、3段に重ねた石に「先祖代々の墓」や「〇〇家の墓」などと刻まれた伝統的な和型と呼ばれる墓以外に、自由にデザインされた墓が増えている。



※全国優良石材店の会のアンケートによる

全国の墓石業者約3000社でつくる全国優良石材店の会（全優石、東京）が昨年、墓購入者約5千人（有効回答数3002）を対象にアンケートを行った結果、伝統的な和型墓が2004年の調査開始以降、初めて過半数を下回った。04年には66・5%だった伝統的な和型は昨年、49・5%に。シンプルな洋型が33・0%、デザイン墓が12・8%だった。

山崎正子事務局長は「日本墓と霊園についての専門誌を刊行する六月書房の酒でも、簡単に加工でき、デザインの自由度が格段に上がった」と話す。さらに、集団就職などで近年、増えている公園風や

宗教意識薄れ／加工技術進む

故人を離れ、核家族をつくった世代の墓が増加している現状も指摘する。「先祖代々の墓に入るのではなく、新しい墓を自分の好みで建てられるようになってきた」と話す。

庭園風の霊園には、洋風の墓が合うから」と話す。また、加工技術の進歩や低価格な墓石の輸入の増加も大きいようだ。「昔の墓は『ヨウカン型』と言って、まっすぐ平面的に切るだけ

に白や赤、青など世界中の石が、人件費の安い中国に集まり、日本に安価な墓が輸入されている」と酒本さう「これまでの黒い石以外」

「全国優良石材店の会」のアンケートでは、地域によって墓の形の割合に違いがあることも明らかになった。

和型の墓は、関東は23・4%と少ないが、近畿と中国、四国ではそれぞれ86・4%、85・9%、77・1%と多い。デザイン墓が増加傾向にある北海道、東北、九州では、それぞれ55・6%、45・2%、51・1%だった。



「耐久性や安全性を検討する必要がある」とは「耐」

「デザインを決めるときにはイメージしてみてください」と酒本さん。実際のデザインを決めるときには「耐」

形 割合 地域・石材店で差

全優石の山崎正子事務局長は「石材店がデザイン墓について、積極的に説明していない地域では、伝統的な和型の3段墓がつくられる傾向にある」と現状を話す。

だが、全優石が主催するデザイン墓のコンテストには大阪からの応募が増えているといい、「近畿などまだ普及していない地域でも、今後デザイン墓は増加するだろう」と予想している。

さまざまなデザイン墓（六月書房刊「美しい墓」から）